

Curve Port



Concept

水勾配により形成されたおおらかな屋根のカーポートを提案する。

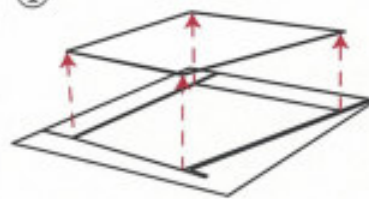
屋根は、雨が屋根の形状に沿って一点に落ちるよう勾配をつけ、端部がひらりとめくれ上がったような形状となっている。

支える壁は、屋根と同様に湾曲しながら地面から突き出すように現れ、壁同士のふくらみと反りが重なってできた隙間から、光や風が入り込む。そして、壁と屋根の間から覗く車や庭の木など、内外ともに様々な見え方をし、表情豊かなカーポートとなっている。

構造は、屋根と壁ともに鋼板を用い、屋根鋼板と壁鋼板の接合点同士が固定されることでお互いが拘束しあって曲がった形を成り立たせる。

ダイアグラム

①



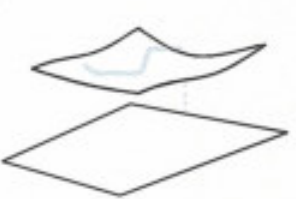
敷地を切り取った形を
屋根の形状とする。

②



雨水が自然に屋根に沿うよう
端部を反らす。

③

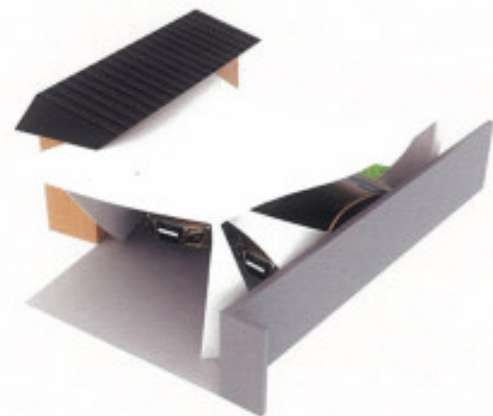


雨水を一箇所に流すために
勾配をつける。
流れた雨水は庭に戻る。

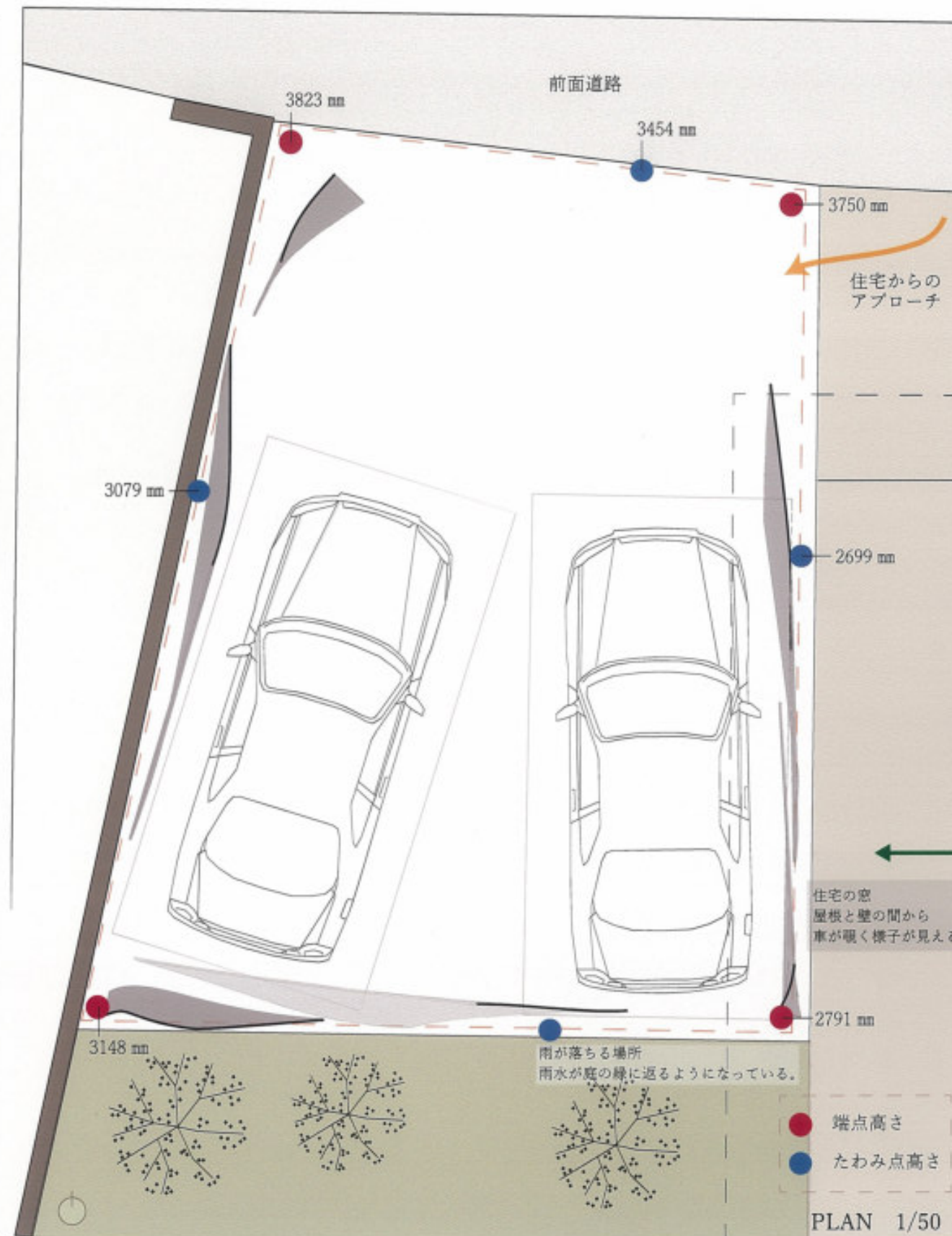
④



屋根の反り返りを支えるように
地面から壁が現れる。



俯瞰図



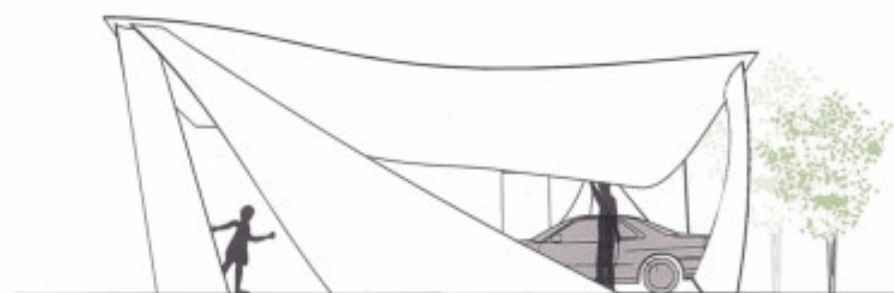
カーポートの内部



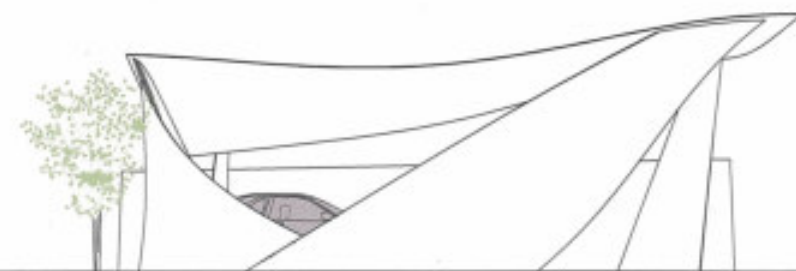
南側の庭からみる



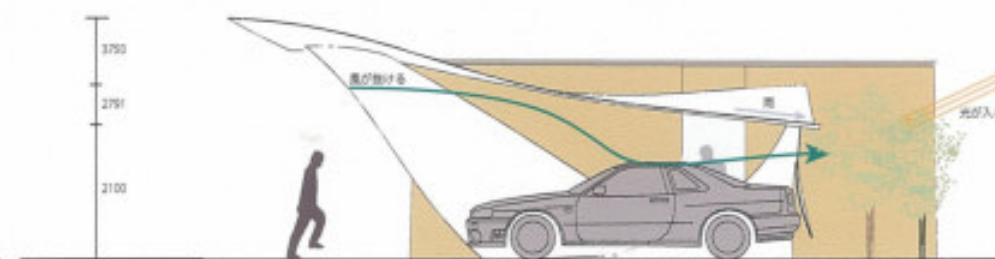
住宅の窓越しにみる



1/100 East Elevation



1/100 West Elevation



1/100 Section

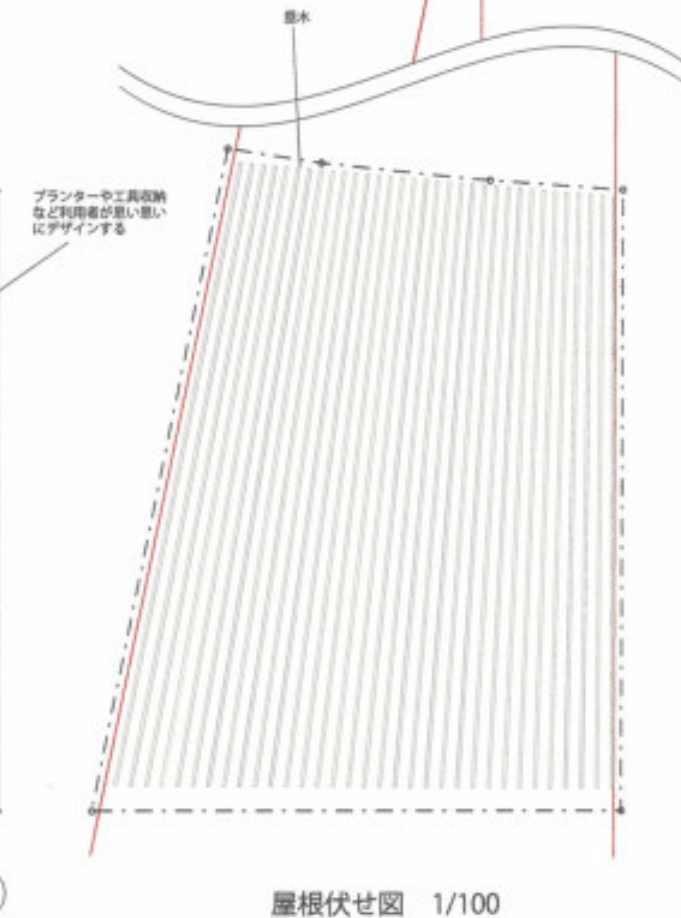
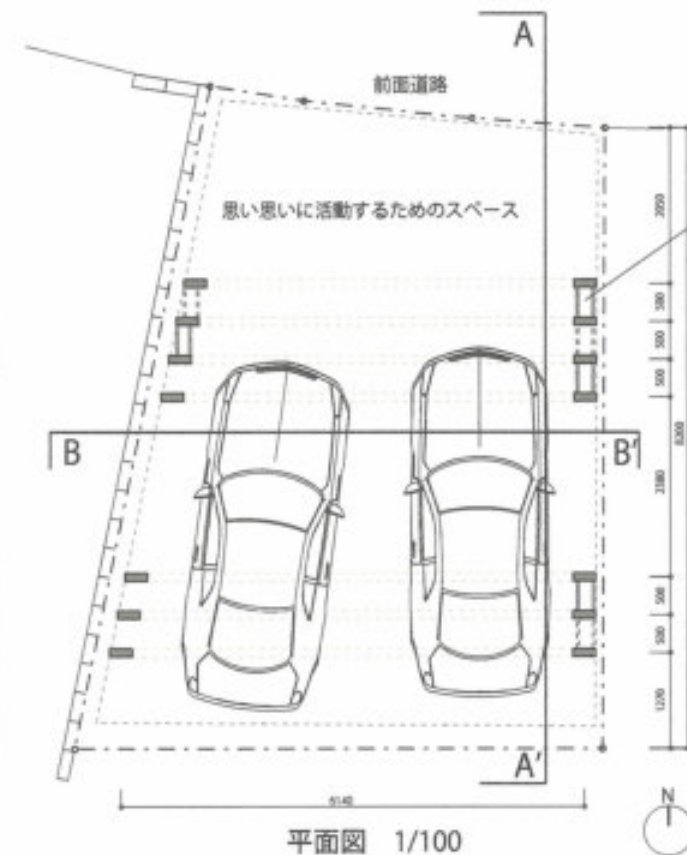


力エル 帰・替・変

～デザインをデザインする～

近未来的でこれまでにない斬新なデザインとは何か。モノや形をデザインするだけでなく使われ方やデザインのされ方をデザインするカーポートを提案する。本提案では、Ⅰ、木製門型フレームによる構造体、Ⅱ、素材の循環による長期スパンのコスト抑制、Ⅲ、利用者と共に作るカーポートの3つの要素を元にカーポートのデザインした。

対象敷地の東西の敷地境界線の交点を基準に扇形状に垂木を配置することで敷地を広く使うことが可能となる。



1. 木製門型フレームによる構造体



木製門型フレームが連続して幾重にも重なることで出先から得てきた、迎え入れてくれるような安心感を与えるデザインとなっている。また、門型フレーム・墨木にはCLTを利用し、屋根材はCLT端材と適度な採光を確保するためガラスを利用している。

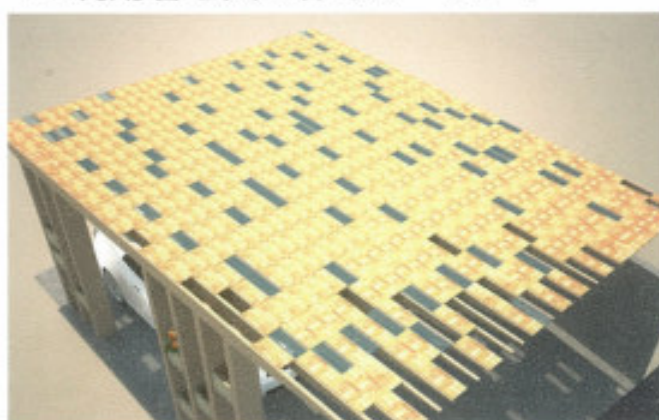
II. 素材の循環による長期スパンのコスト抑制

素材のサイクル図



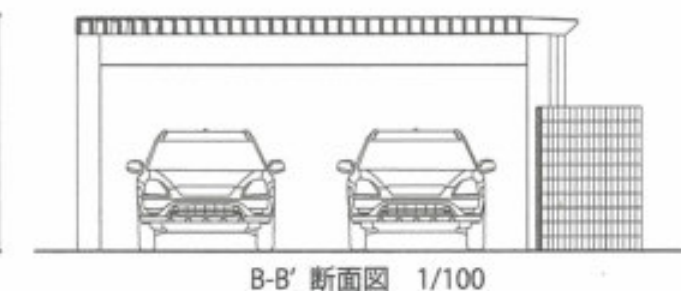
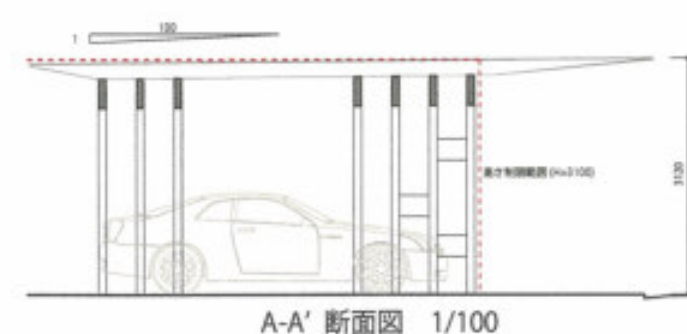
このカーポートの部材は主に柱・梁となる門型フレーム、垂木、屋根材の3部材からなり素材は同じものを使用する。これらの部材の中で最も大きな部材は柱・梁であり垂木、屋根材と部材は小さくなる。垂木が組み始めると垂木より大きな部材である柱・梁を加工し垂木として再利用する。同様に屋根材は垂木を加工し再利用する。このように新たな部材を作るのではなく、他の部材を再利用することで環境、コストの抑制に配慮した独自の循環サイクルを作り出す。

Ⅲ. 利用者と共に作るカーポート



近年、カーポートのあり方が多様化している。単に車を駐車する場所ではなく、庭や住宅の軒先の延長線上としてBBQを行うなど、様々な利用されている。

そこで、利用者のニーズに合わせた利用者と共にデザイン変化する。屋根のどの部分をガラスにし、光を落としたいかなど利用者と共にデザインする事で、自らの提案により実現される達成感、クライアントとデザインを考える充実感が得られる。また、門型木製フレーム間に屋根材材により作られた箱を取り付けることで、工具の収納やプランターとして利用でき利用者によって様々な使われ方が期待できる。

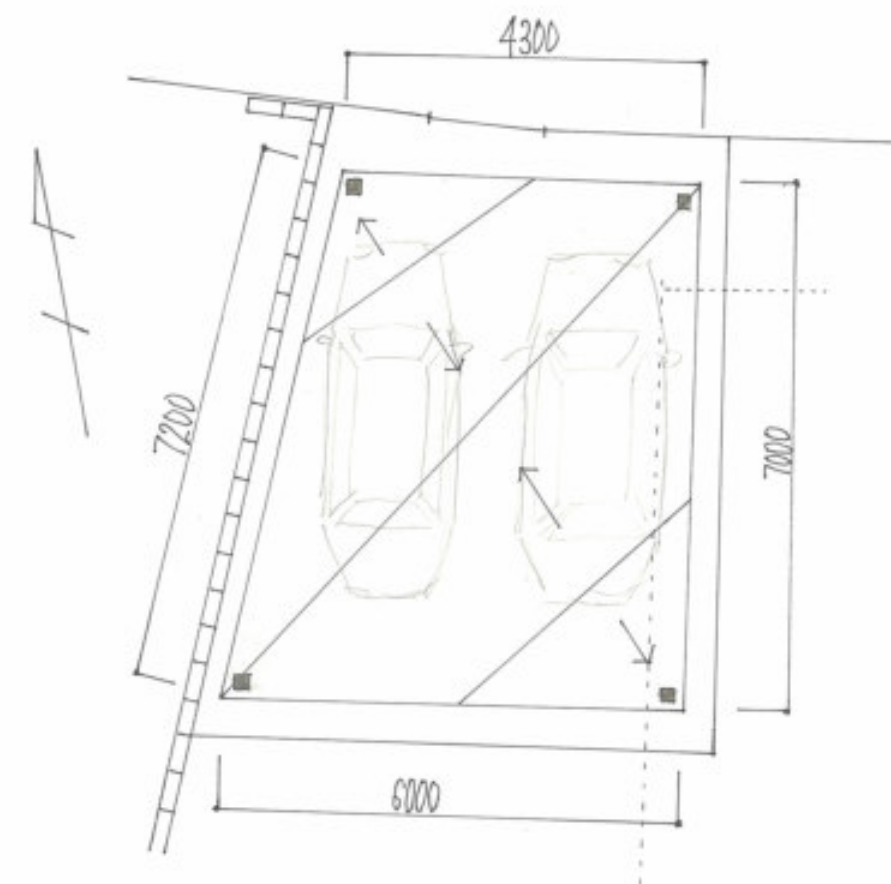


Simple

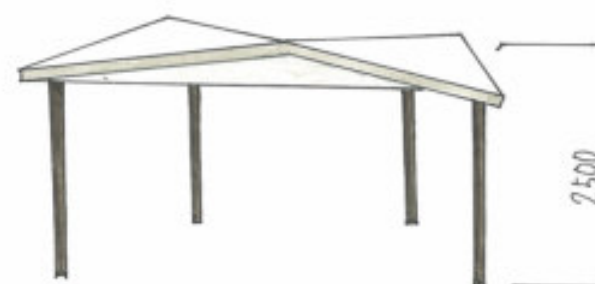
一見複雑な形状をしているように見えますが一枚の平面を山折り、谷折り、山折りの順で折り曲げているだけです。ただ折り目を対角線上にとるだけで近未来的に見えるのです。近未来といっても物自体は至ってシンプル。シンプルゆえに景観を崩したりもしません。主張しすぎないのもこのカーポートの利点。シンプルこそがデザインです。

屋根材にアルミを使用することで屋根そのものが構造材となり、これまでプラスチックの屋根材を使用したカーポートで必要だった中骨を必要としない。

But it's new.



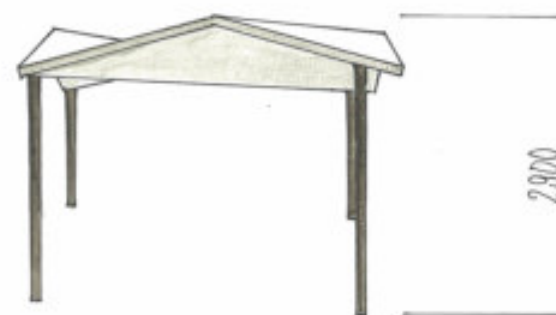
西立面図



南立面図



東立面図



北立面図

